



福井県文書館企画展示

新発見！福井城下絵図のヒミツ

—浅井家がのこしたものの—

平成25年 **6月28日** (金) ▶ **8月21日** (水)

◇開館時間：9:00～17:00 入館無料

◇休館日：7月1・8・11・16日

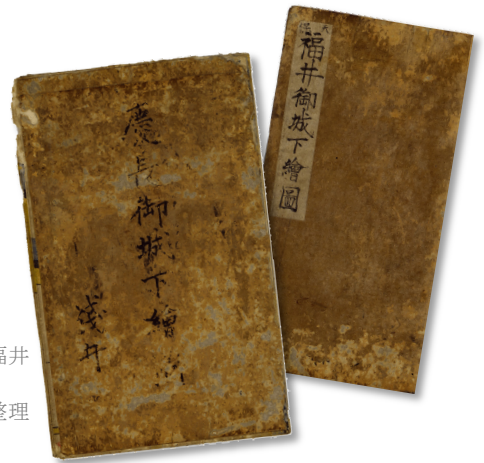
◇県史講座：8月3日 (土) 13:30～15:00

「慶長御城下絵図」をめぐって

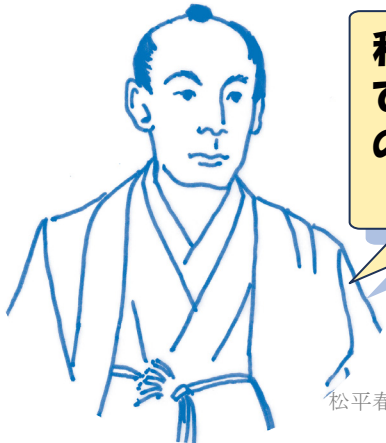
講師：吉田 健 (元文書館文書専門員)

会場：図書館多目的ホール (要申込)

福井県文書館 FUKUI PREFECTURAL ARCHIVES



「慶長御城下絵図」「天保福井御城下絵図」表紙
森永与右衛門家文書（整理中） A0029-00050・00051



松平春嶽（イメージ）

私が今日の名誉を保っているのは、八百里のおかげだ。

（「真雪草紙」）

幼くして藩主となった春嶽は、家臣の意見を広く求め、知識を吸収することによって、藩を治めていきました。

なかでも八百里はとくに春嶽の将来を心配して、君主としてあるべき姿をただすよう、たびたび率直に献言しました。春嶽が八百里の献身に感謝しているようですが、後年の回想（「真雪草紙」）に記されています。

□主な展示資料

- 「慶長御城下絵図」森永与右衛門家文書 A0029-00050（整理中）
- 「天保福井御城下絵図」森永与右衛門家文書 A0029-00051（整理中）
- 「若越城下町古図集色指定原稿図 第一図 北庄古図」松原信之家文書（当館蔵）A0135-00022
- 「正二位慶永公御著述真雪草紙」松平文庫 1554（仮 164） 福井県立図書館保管
- 「剥札（下）」松平文庫 917（仮 695） 福井県立図書館保管
- 「御城下諸事之部」松平文庫 653（M42-11） 福井県立図書館保管

県史講座のご案内

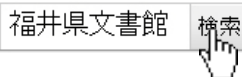
- 平成 25 年 8 月 3 日（土）13:30～15:00
「慶長御城下絵図」をめぐって
- 講師：吉田 健（元文書館文書専門員）
- 会場：図書館多目的ホール
- 定員：80 名 無料
※電話、FAX、メール等で事前に文書館まで申し込んでください。



※フレンドリーバス（無料）をご利用ください。

福井県文書館企画展示リーフレット 平成 25 年度

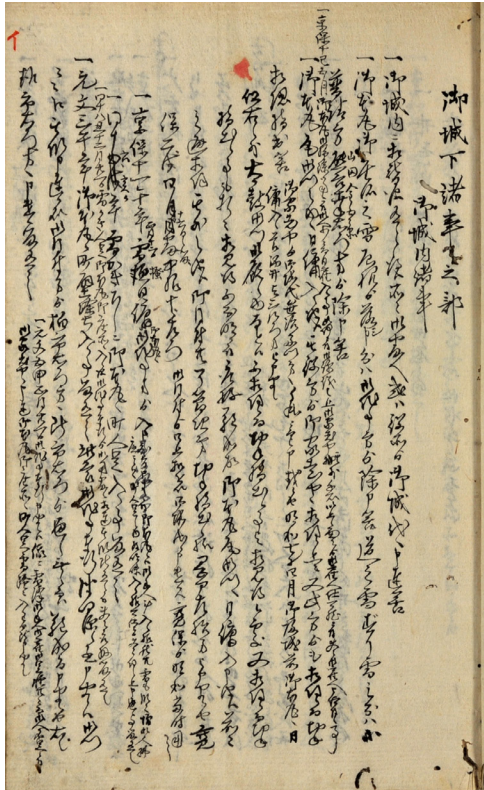
平成 25 年 6 月 28 日発行 編集・発行／福井県文書館
〒918-8113 福井市下馬町 51-11 電話 0776-33-8890 FAX0776-33-8891
E-mail : bunshokan@pref.fukui.lg.jp



浅井八百里のココがスゴイ！

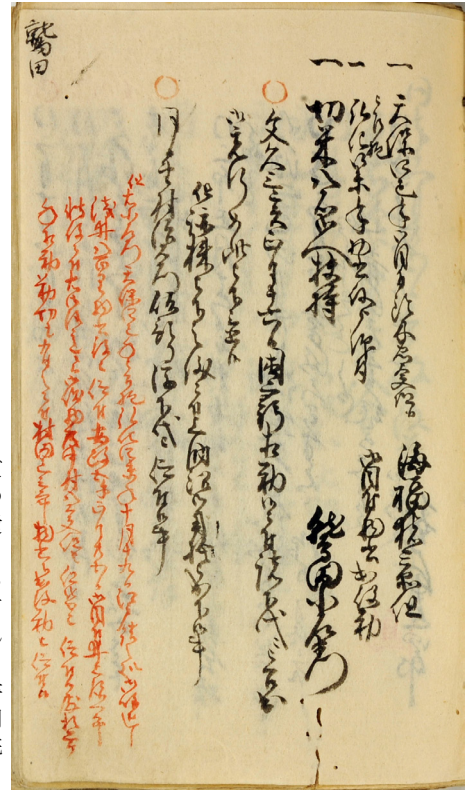


④「天保福井御城下絵図」印影
森永与右衛門家文書 A0029-00051 (整理中)



⑤「御城下諸事之部」
松平文庫 653 (M42-11)
福井県立図書館保管

八百里が著した「執法全鑑」のうちの一冊とされています。



⑥「新番格以下一〜七」
松平文庫 926 (仮 117)
福井県立図書館保管

八百里組の物書だった二見浦右衛門の後任、鷺田直四郎の履歴で、弘化4年(1847)、江戸詰だったところを呼び返されて八百里の物書を命じられたことがわかります。八百里は、各目付の書役を動員し約2か月間で「新番格以下」を完成させました。

今回見つかった「慶長御城下絵図」「天保福井御城下絵図」にはともに「浅井氏印」④という捺印と記名があり、この絵図は浅井八百里（政昭）（1813～1849）の子息である権十郎（政由）のものであったことがわかります。

権十郎の父 八百里は、窮乏していた藩財政を立て直した藩士として有名な中根雪江の従兄です。側頭取から目付となり、松平春嶽の教育係だったことで知られています。

これまで八百里には、学究肌の人物というイメージが強かったのですが、いっぽうで、低い階層からの人材登用を見越した下級家臣の人事管理文書「新番格以下」⑥の作成にも深く関与していたことがわかりました（『福井県文書館資料叢書 9 福井藩士履歴 1 あ～え』解説）。

そして、八百里が目付として取り組んだ人事管理のしごとには、各藩士の屋敷地の変遷を確認する作業も含まれていました。二つの絵図は、このような空間的把握のために用いられ、浅井家へのこされたものと考えられます。

有能な教育者であり官僚でもあった八百里は 37 歳という若さでこの世を去ります。もう少し長生きしていたら、橋本左内や横井小楠といった、その後の激動の福井藩を支える重要人物の一人となっていたに違いありません。

子息の権十郎も、目付として藩政に関わったいっぽう、弟の常次郎は、禁門の変で戦死しました。藩政改革に奮闘しながら、道半ばで早世した父八百里とともに、浅井家は大きな時代のうねりに巻き込まれたといえるでしょう。

□まぼろしの「執法全鑑」

八百里は、古書を調べ古老に尋ねて藩政の先例集「執法全鑑」全 28 巻を編さんしたとされていますが、全貌は明らかではありません。松平文庫にはその一部と思われる冊子⑤がのこされており、内容は詳細で、几帳面な八百里のようすをよく示している、優れた資料です。

新発見の絵図 ココがポイント！



①「慶長御城下絵図」森永与右衛門家文書 A0029-00050（整理中）

その昔、幸橋はあった？
なかった？



②「(北之庄城郭図)」松平文庫 1309 (M73-1)

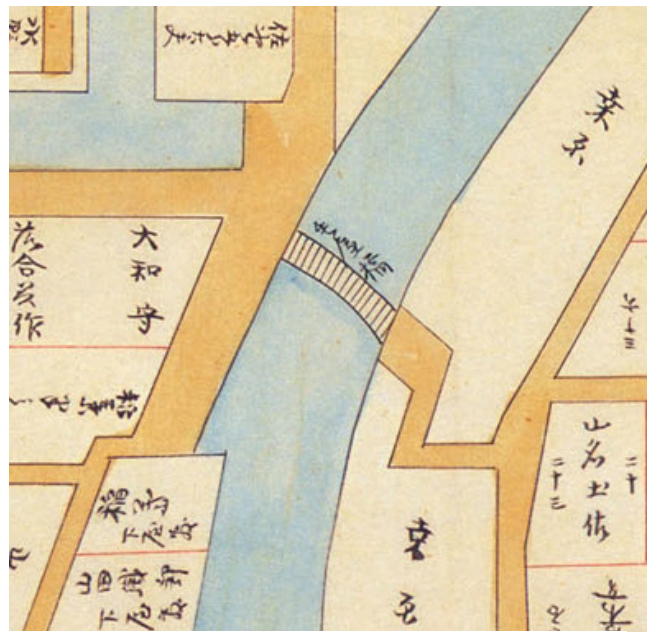
福井県立図書館保管

慶長 17～18 年（1612～13）頃に描かれた絵図には、原本は確認できませんが、数種類の写図がのこされています。この 3 点は、同じ絵図の写図と考えられ、浅井家にのこされていた①の絵図には、橋は描かれていません。ところが右下の絵図③には「毛屋橋」と記されています。

いっぽう右上の絵図②には「毛ヤノハシ」とありますが、「本書ノマ、村田氏春云此橋ハ書写之誤成可シ」（元の図のままとしたが、村田氏春がいうには、この橋は書き写した際の間違いだろう）と書かれています。

これらの絵図が写されたのは幕末。その当時、現在の幸橋の場所には橋はなく、繰舟（川の兩岸に綱を渡して通る舟）での往来がなされていました。そして慶長期に橋はかかっていなかったと考えられていたと思われます。①の絵図は、当時誤りと思われた点を適宜修正したものと推測されます。

このように幕末と慶長の頃の城下には、橋の有無だけでなく、いくつもの違いがみられます。幕末にこうした写図を持っていた人びとは、当時とは異なる、藩祖秀康入城間もないはるか昔のようすを思い浮かべ、貴重な情報が記されたお宝としてこの絵図を眺めていたのではないのでしょうか。



③「福井御城下之圖」明治大学図書館所蔵芦田文庫